



子どもの居場所づくり
地域ではくくむ

さあ

子どもたちと ふれあおう!



「学校がぼくらの遊びの場に変身したよ!」

1月19日(土)、盛岡市立月が丘小学校で「遊びの広場」を開催した。遊びの企画は子どもたちの発想でいこう!ということ、事前に2回の子ども遊び企画会議(以下、子ども会議)を経て実施した。子ども会議から遊びの広場実施までの取り組みを紹介する。

(取材・文/谷藤 康浩)

子ども会議から楽しい遊びが飛び出す

盛岡市立月が丘小学校(岩手県)

冬休みが待ち遠しい昨年の12月上旬、遊びに関する子ども会議参加者を校内で募集。自主的に集まった児童は、1年生から5年生までの16人。2年生と5年生が特に多かった。この会議に先立つこと2日前に、「月が丘小学校おやじの会」も誕

生した。子ども会議は、子どもたちのほか、おやじの会メンバー数人と学校側から教頭先生も参加して行われた。出された遊びのアイデアと意見交換のいくつかを紹介すると、「雪で凍った校舎の周りを自転車でトライアルレース」「校舎で肝試し大会」「ボーリング大会」「宝さがし」「鬼ごっこ」…。「宝の入れ物はカプセルを買うとお金がかかるなら、校舎の周りの石を宝に見立てて、ラッピングや色マジックで書いてもOKだよ」とユニークで建設的意見が飛び出す。おやじの会から「その意見、



意見が活発に飛び交う子ども会議



(右) 鬼に追いか
けられて廊下を走
り回る子どもたち
(下) 宝物はどこ
だ？



採用ノ」の声。すごいアイデアに関
心することしきり。「自転車でトラ
イアルレースは危ないと思います」
と女子児童。たくさんの子どもの手
が次々と挙がる。結局、話し合いの
結果、実際に行う遊びは「校舎を使
つての宝探しゲーム」「体育館で親子



フットサル」「廊下で
ボーリング」「親子隠
れ鬼ゲーム」と決定。
「遊びのルール」な
ども子どもたちの提

案をほぼ採用。大人
側からは安全面のル
ールの助言を行った。
開催日当日の1月
19日、午前9時にま

ず体育館に全員集合し、子ども会議で決めた遊び
を実施した。宝さがしの宝(石)に家できれいに
ペイントしてきた女の子にみんなびっくり。満面

の笑みを浮かべ校舎の中の教室、廊下を思いっき
り走る回る子どもたち。この日ばかりは、「廊下
を走ってはいけません」という先生の声は聞こえ
ない。「遊びの広場」の文字通り、学校が子ども
の遊びの広場となった。「廊下でボーリング」で
は、長い廊下でボーリングのピンに見立てたペッ
トボトルを狙う低学年児童。「親子隠れ鬼」では
少年時代に戻って、すばしっこい子どもたちに手
を焼きながら本気で追いかけるお父さん。あっと
いう間にお昼になった。お父さんたちと一緒にひ
つつみ汁を作って、昼食。会話も弾んだ。

今回、子ども会議から始まって、子どもと同じ
目線で大人が向き合う努力をすれば、子どもは本
当はきちんとした考えを持っているということをも
大人たちは理解した。これからの大人と子どもの
遊びの取り組みは、子どもたちの心にある子ども
主体の自由な遊びをやりたいという声に大人たち
が真摯に耳を傾け、どうすれば子ども主体になる
のか、実現に向けたプロセスを大切にしながら取
り組んでいくことが求められている気がする。

